

平成30年度 環境保全活動実施報告【関東地区】

(1)実施日	平成30年11月9日(金)
(2)実施場所	渡良瀬遊水地(栃木県・群馬県・埼玉県・茨城県)
(3)参加者	17名(15名+事務局2名)
(4)協力	関東地方整備局、小山市、(公財)日本生態系協会
(5)活動内容	<p><外来種駆除活動について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・セイタカアワダチソウ※等の外来種が侵入し、植物の生育に悪影響を与えており、小山市(栃木県)では平成26年より地域(サポート企業・団体)やボランティアと共に除去活動を実施している。 ・今回、参加者全員で20分ほど手作業で除去作業を体験。 ・作業は、茎や葉の全体に固い毛が多く、手触りがざらつく植物のため、軍手が必須となるが、女性でも簡単に抜き取ることができる。 <p>※北アメリカ原産のキク科。成長すると1~2mに達する。繁殖力が強く、根から科学物質(毒素)を出し、他の植物の生育や種子が発芽するのを妨げる。</p> <div data-bbox="1114 719 1439 931" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">セイタカアワダチソウ</p> <p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4県にまたがり、利根川の3支流が流入する地域である「渡良瀬遊水地」は、絶滅危惧種を含む野鳥や植物などの動植物が生息する地域であり、平成24(2015)年にラムサール条約湿地に登録された。 ・また、小山市が人工巣塔やデゴイ(鳥の模型)を設置をしたところ、平成30年2月、11月にはコウノトリの飛来が確認された地域でもある。 <div data-bbox="1114 1137 1423 1339" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">人工巣塔(小山市HPより)</p> <p><視察箇所について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷中村跡 <ul style="list-style-type: none"> 谷中村は低湿地帯の広がる洪水の多い地域であり、遊水地化(洪水時の河川の流水を一時的に氾濫させ、水害を軽減する)にあたり、明治39年(1906)に廃村になった。役場跡や神社跡など地域の要望を受け、その一角を残した為、渡良瀬貯水池(谷中湖)はハートの形となっている。 ・野木ホフマン館 <ul style="list-style-type: none"> 東京駅舎など、歴史的建造物にも使われた煉瓦を製造した窯を修復保存する施設で、窯の内部を見学することができる。 この窯はドイツ人技師によって改良された「ホフマン式輪窯」というもので、初期の円形のもので現存するのは日本で唯一であり、国の重要文化財にも指定されている。

(6) スケジュール	<p>09:30 JR 古河駅集合 バスで出発</p> <p>09:50 「道の駅 きたかわべ」到着 三県境(栃木・群馬・埼玉)・渡良瀬遊水地全体を、関東地方整備局の方の案内により、展望デッキから視察(別紙①)</p> <p>10:30 「渡良瀬遊水地第一調節池」、「谷中湖」到着 谷中村跡を地元ガイドの案内により、視察(別紙②)</p> <p>11:30 昼食(渡良瀬遊水地名物のダムカレー)(別紙③)</p> <p>12:50 「野木ホフマン館」到着 ガイドの案内により視察(別紙④)</p> <p>13:40 車中より、コウノトリの人口巣塔などを視察</p> <p>14:20 「渡良瀬遊水地第二調節池」到着 外来種(セイタカアワダチソウ)の駆除作業(別紙⑤)</p> <p>16:30 「小山市穂積公民館」到着 参加者全体で意見交換(別紙⑥)</p> <p>17:30 JR 小山駅 到着・解散</p>
(7) 参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種駆除体験は、社会貢献型の企画として、また普段できないことという点で魅力的な体験である。 ・自然と触れることは多くの人にとって、貴重な体験である。 ・地域に資源があることを認識してもらい、それを広くアピールすることが必要だと思う。 ・社会貢献の取組みが重要と考えており、環境活動に参加しているが、さらに商品として提供することで、多くの人に参加してもらえようようにしていくことが業界としての責任と認識している。 ・企業などもSDGsの潮流もあり、このような取組への参画には前向きだと感じる。
(8) その他情報	<p><ヨシ焼き></p> <p>広大なヨシ原を覆う炎の波、大量の煙を伴う「ヨシ焼き」は、渡良瀬遊水地の春の風物詩となっている。</p> <p>効果として、①立ち枯れたヨシを焼くことにより、春植物の発芽に必要な日照が確保され ②発芽した若いヤナギなどがヨシ焼きにより焼かれるため、樹林化を防ぎ、広大なヨシ原が維持される。</p>

